

実際に航空業務を見学して

B大学：文学部・人文学科・2年

期間：令和2年8月24日～28日（5日間）

この5日間は、私にとってとても貴重で、今まで経験したことのないような体験をさせていただきとても有意義なものになりました。インターンシップではグランドスタッフの業務だけではなく、運航支援や貨物など空港での様々な仕事を見学することができ、飛行機を飛ばすために多くの人たちが関わっていることを知り、チームワークが欠かせない仕事だと感じました。

一日目と二日目は主にカウンター業務を見学させていただきました。カウンターではチケットの発券、お客様の荷物の預かり、予約などたくさんの業務がありましたが、社員の皆様がお客様一人一人親身になって対応されている姿を見てさすがだなと思いました。そして実際に航空券の発券を練習でやらせていただきましたが、パソコンに書いてある内容がとても多く難しかったです。これを素早く対応できているグランドスタッフさんはすごいなと身をもって感じました。

三日目はグランドハンドリングのお仕事を見学させていただきました。マーシャリング、手荷物や貨物の搭載、プッシュバック、PBBなどたくさんの仕事がありました。いつもは乗っているだけの飛行機をグランドハンドリングの立場から見ると全く違う世界が広がっているなと思いました。このグランドハンドリングという重要な業務がなければ飛行機は飛ばされないということを知り、責任感のある業務だと身をもって感じました。

四日目は、ゲート業務を見学させていただきました。羽田空港から到着されたお客様のお手荷物の受け取りを案内し、その後すぐに宇都空港から羽田空港へ出発されるお客様の搭乗手続きをして、お見送りをさせていただきました。予定通りの時間にお客様を飛行機に案内しなければならないとても重要な業務でした。

五日目は、旅客責任者、運航支援、空港ビルの見学をさせていただきました。中でも空港ビルの見学で普段は入れない、上級のお客様専用の待合室に入れさせていただいたことや、今は使われていない国際線のターミナルを紹介していただいたことが記憶に残っています。

この5日間のインターンシップで様々な方と関わらせていただき、多くの事を学びながら貴重な体験もさせていただきました。また、このインターンシップで、以前に増して空港で働きたいと強く思うようになりました。これから就職活動に向けてグランドスタッフの方から聞いたアドバイスや意見を参考にさせていただきながら、自分の夢に向かって精一杯努力していきたいと思います。

「山口県で就職することに対する意識の変化」

KJ大学：文学部・史学科・3年

期間：令和元年9月9日～13日（5日間）

U株式会社さんに行かせていただくことになったきっかけは、物流に興味があるという理由でありました。ですので、当初の目的は、U株式会社さんがどのように物流を担っているのか、そこで働いている方々がどのような気持ちで働いているのかを知ることでした。実際にインターンシップ生として行かせていただくと、物流、海運に関することなどをとても丁寧に教えてくださった上に、色々な役割を担っている方々のお話を聞かせていただく時間を設けて頂けたので、当初の目的は完璧に果たすことができました。ですが、今回のインターンシップで一番感謝しているのは、山口県で働くという私のイメージを大きく変えていただいたことです。

失礼を承知で述べさせていただくと、今回のインターンシップ前の山口県で働くことへの私のイメージは、小さな世界で働くようなイメージでした。しかし、U株式会社さんがおこなう仕事は、保有船舶の運航管理であったり、外国船の入港スケジュール確認や、必要機関への連絡であったりと、山口県を離れた、外の世界ともつながる仕事であり、私のイメージは全くの偏見であったことを知りました。これらの経験は、山口県内であっても、広い世界とつながっていて、自分がやってみようと思えばできないことはないのかもしれないと、希望が持てる経験となりました。

また、今回のインターンシップで感じたのは、山口県の人々の人柄の良さです。もちろん、大学進学以前は山口県で育っているため、山口県の人々の穏やかでまじめで優しい人柄は実感していましたが、一度他の地域に出てから戻ってくると、改めて、山口県の人々の温かさを感じました。お仕事の邪魔をしてしまうはずのインターンシップ生の私に対して嫌な顔をされる方は誰もおらず、「もしあなたが直接的にこの職業に関わらなくても、いつか、何かで役に立つかもしれないから」と一から丁寧に教えてくださり、私の小さな質問や疑問にも細やかに答えてくださいました。経験不足で、物事を知らない若者である私に、多くの経験をさせてくださろうとする心遣いを感じ、本当に幸せな体験となりました。

インターンシップ参加以前から、山口県に戻って就職したいという気持ちはありました。ですが、他の都道府県でも魅力を感じるなどあり、悩みが付きませんでした。今回のインターンシップを通して、私が想像していた以上に山口県は大きな世界とつながっていて、山口県に戻りたいという気持ちを深めてくれる良い経験となりました。今後は、お世話になったU株式会社の方々への感謝を忘れず、今回の経験を活かした就活を行っていきたいと思っています。

航空業界で働くということ

F大学：法学部・法律学科・3年

期間：平成30年8月20日～24日（5日間）

この5日間は、私にとってとても貴重で素晴らしく有意義なものになりました。私は元々、“飛行機”、“旅客機”という乗り物が好きで、小さなころから週に1度以上は福岡空港へ出掛け、展望デッキから何時間も飛行機を眺めたりするような子供で、20歳になった今でも、暇を見つけては空港に行ったり、空を飛ぶ飛行機を見つけてはフライトレーダーで調べるほど飛行機が好きで、今回、空港でのインターンシップの募集を見て、すぐに応募させていただきました。

初日は、一通りのながれを確認したうえで、羽田空港から到着されたお客様をお出迎えして、お客様が預けられたお手荷物の受け取りを案内したり、タグを回収したり、逆に羽田空港へ出発されるお客様の搭乗手続きをして、お見送りをしたりなど、グランドスタッフの仕事内容を体験させていただきました。普段はもちろん接客される側の立場なのでとても新鮮でした。

2日目から最終日まで、私のグランドハンドリングの業務がしたいという身勝手なわがままを快く受け入れてくださり、4日間、グランドハンドリングの業務を体験させていただきました。宇部空港は、ANAさんの飛行機は、1日に往復6便ということもあって、4日間の中で飛行機というものについての知識や飛行機の到着から、出発までのグランドハンドリングの業務の一連の流れをたくさん教えて頂きました。教えて頂くだけでなく、実際にお客様からお預かりしたお手荷物や、空輸荷物を飛行機や貨物コンテナに詰め込む作業などを体験させていただきました。

また、ANAの整備士さん、スターフライヤーの整備士さんにも、飛行機の仕組みや航空法によって定められていることなどを沢山教えていただきました。使用する道具なども飛行機の機種によって一つひとつ、細かく分かれていたりして、飛行機というものはとても繊細で機密なものだとすごく実感しました。ひとつの飛行機を飛ばすのには、また定刻通りに飛ばすのには想像以上にたくさんの方の労力があってこそであると凄く痛感させられました。

いつもは見ているだけ、乗っているだけの飛行機をグランドハンドリングの立場からは全然違う世界が広がっていることに気付かされました。

この5日間のインターンシップは、航空業界で働きたいという将来の夢という形だけで私の中に存在していたものが、凄く現実的に近づけることが出来たととても有意義なものとなりました。S株式会社航空事業部の方々へは、お忙しい時間を削って私を含め4人を丁寧にそして優しくたくさんの方の事を教えて頂いたことは本当に貴重で来年に迫った就活の前に、とても有意義な時間を過ごすことができました。また山口県インターンシップ推進協議会による補助金の制度がなければ実現しなかったであろう私の夏のインターンシップ。

山口県インターンシップ推進協議会、S株式会社航空事業部の皆様への感謝の気持ちを忘れずに、就活に向けて気持ちを高め、納得のいく就活ができるように精進していきたいと思っております。貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

視野を広げる

S J 大学：人文学部・観光文化学科・3年

期間：平成 29 年 8 月 28 日～30 日（3 日間）

今回のインターンシップに参加した目的として、高校の選択授業、そして3年前期の授業で国際ビジネス論を受講し、貿易について興味を抱きました。授業では主に文字や写真で説明していたため、あまりイメージが湧かず、実際に現場等で貿易がどのように成立しているかを知りたいと思いインターンシップに参加しました。

学科が観光文化学科であるため、物流について関わることはありませんでしたが、生活している身の回りの物は初めからその場にあったものではなく、様々な人が関わりその場所まで物が流れてきたと知ることができ、物流業界に面白さを感じました。また、物流が止まると日本や世界が回ることが不可能になり、生きることが非常に苦しい状況になります。それだけ“物流”の仕事が日本や世界にとって重要な仕事だということをこのインターンシップを通して強く感じました。

インターンシップの際に、現場に連れて行っていただき、外国船が日本に到着する瞬間や到着した外国船からコンテナを日本の陸地に降ろす瞬間、保税地域、税関など様々な場所を見ることができました。全ての現場が新鮮で下関という身近で貿易が成立していることが未だに実感できません。最終日に輸入の申告書作成を教えていただきながら作成しました。この1枚の申告書は1枚紙であるが、高額の取引に関わるので、間違えてしまうことはできない業務で、確実に気を抜くことはできない仕事であると感じました。しかし、自分が作成した申告書で貿易が成立すれば、達成感ややり切った感を感じることができ、業務に対して、自分に少しずつ自信も持てるようになる仕事だと感じました。そして、物流業界となると難しい用語も多々出てきて、話についていくことが大変であったことが印象強いです。授業で出てきた用語もありましたが、仕事の話になると業界用語で話すため、全ての用語の意味を理解しておかないと、スムーズに仕事を進めることができず、報・連・相も共有も確実にできないだろうと思いました。それだけ、業界用語の大切さを実感しました。

また、昔から海外と関わる仕事に興味がありました。今回業務体験をさせていただいた部署は輸入であったため、貿易に関わる書類は全て英語で書かれていて、海外と関わる仕事の難しさを実感しました。英語が好きで、外資系で働きたいと今までは簡単に思っていたのですが、外資系も含め全ての企業への考え方が変わりました。しかし、英語が好きならば、もっと英語の勉強をして力を伸ばすことも可能であることがわかりました。

今回参加したインターンシップで業界の視野が広がりました。ネットに書いていることだけでは知ることができない現場や業務について、文字だけでは伝わらないことも感じました。知らないことが知っているに変わること、自分の可能性を広げることにも繋がると思うので、今の知識だけではなく、就職活動を始める前までに今自分が知らないことも知って視野を広げたいと思います。

グランドスタッフへの憧れ

S J 大学：人文学部・観光文化学科・3年

期間：平成28年8月22日～26日（5日間）

私は空港でのインターンシップに参加して、空港に携わっている方のお仕事を見学、体験しました。インターンシップでは、グランドスタッフの業務だけでなく、搭載や貨物など空港での様々な仕事を見学することができ、空港での仕事は旅客業務以外にも、多くの部門があるのだと実感しました。飛行機を飛ばすために、自分自身が思っていたよりも多くの人に関わっていて、チームワークの必要な仕事だと感じました。また、皆様が一丸となって飛行機を安全に、定刻に出発させようとしている姿にとっても責任感を感じました。

インターンシップ期間中は、多くのグランドスタッフさんとお話する機会がありました。そこで就職活動のお話や、実際に働いてみての感想、プライベートのことなどたくさんのお話をいろんな方から聞いて、とても勉強になり就職活動への意識を高めることができました。誰に聞いても、入社してからの勉強が大変で、システムもどんどん変わるため、日々勉強だとおっしゃっていて、大変そうだと思いましたが、毎日お客様の笑顔を見ることができ、やりがいのあるお仕事だと感じました。

私が実習中に一番印象に残っていることはグランドスタッフさんの笑顔と気配りです。お客様一人一人の要望に笑顔で丁寧に答え、また子供が泣いていたらステッカーをプレゼントするなど、困っているお客様がいたらすぐに駆け寄り、手助けをしている姿を見て、お客様のことをよく見ていて、第一に考えているのだと感じました。グランドスタッフの方々は、私たちが困っていても、すぐに飛んできて教えてくださり、私たちにまで本当に親切にしてくださって感動しました。すれ違うたびに話しかけてくださり、気を配っていただき、毎日笑顔で実習をすることができました。また、多くのことを教えていただき、毎日新たな知識が増え、たくさんの貴重な経験をさせていただき、日々驚きと興奮の連続でした。

インターンシップ前はグランドスタッフの仕事は、いつも笑顔で華やかな仕事だと漠然と思っていたのですが、実際に業務を体験させていただき、いつも楽しくて華やかな仕事だけではないと身をもって実感しました。しかし、常にお客様の前で笑顔を決やさず接客している姿を見て接客業のプロだと感じました。

インターンシップに参加することにより、以前に増して空港で働きたいと強く思うようになりました。また、いつも優しくしてくださり、笑顔で接客をし、てきぱきと仕事をこなすグランドスタッフという仕事への憧れも強くなりました。このインターンシップで様々な方とかかわり、多くのことを学び、たくさんの貴重な体験をすることができました。また、働くことの厳しさや楽しさ、やりがいを感じる事ができ、とても成長できた5日間でした。今後は、グランドスタッフの方々から聞いたアドバイスや意見を参考にしながら、悔いの残らないように、自分の夢に向かって精一杯努力したいと思います。また、残りの学生生活で、社会人として当たり前の言葉遣いや気配りなど、身につけるべきことを確信することができ、これから何をすべきかを考えることもできたので、本当に今回のインターンシップに参加することができて良かったです。